

令和５年度（第３２回）職業能力開発論文コンクールの総評

職業能力開発論文コンクール審査委員長

１． はじめに

令和５年度職業能力開発論文コンクールは、「職業能力開発に携わる方等によって執筆された職業能力開発の実践等に係る論文のうち、優秀な論文を選定しその成果をたたえ、広く関係者等へ周知をすることによって職業能力開発関係者の意識の啓発を図り、職業能力開発の推進と向上に資すること」を目的として、厚生労働省、中央職業能力開発協会、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構の共催により行われました。

２． 応募の状況

今回のコンクールでは、４２本の応募がありました。その内訳は、都道府県立職業能力開発施設５本、民間企業等１本、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設３６本となりました。前回の令和３年度と比較して、全体として７本減少しました。すなわち、都道府県立施設からの応募が４本減で、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設からの応募が２本の減少、民間企業から１本の減少でした。

分野別では、電気・電子・情報分野１４本、機械分野９本、建築分野５本、障害者関係分野７本、職業能力開発分野７本、その他の専門分野２本と幅広い応募がありました。

テーマ別では、「多様で柔軟な職業能力開発の推進」「障害者に対する職業能力開発」の２テーマが、前回の令和３年度と比較して増えております。

３． 総 評

職業能力開発の充実に向けたご関係者の積極的な姿勢と日々の着実な御努力がうかがえ、大変感銘を受けました。

それらの具体的内容をみると、職業能力開発の現状と課題を踏まえたさまざまな興味深い取り組みがありました。すなわち、職業能力開発における技術的手法にとどまらず、地域連携、チームワークの醸成、人材育成、キャリア形成支援、障害者支援、訓練手法、対人的および理念面の技量向上の取り組みなど多岐にわたる職業能力開発に向けた優れた挑戦が、情熱をもって語られていました。

中でも厚生労働大臣賞（特選）を受賞した論文「VR技術を活用した射出成型技術の習得と安全作業に関する訓練実践」は、VR装置の活用が時代の要請的確に応え、それにより訓練生の興味を引き付け関心を高めていることがよく理解できました。またアンケート調査の分析を通じその訓練効果を検証した点も高く評価できます。今後の能力開発にデジタル技術を活用する職業能力開発のDX化の推進する際に大いに参考になる優れた内容であると考えます。

今回の受賞論文をご参考として、ご関係者各位におかれましては、さらなる研鑽を積み、職業能力開発のための努力を継続していただきたく存じます。

今後の職業能力開発論文コンクールにおいて、さらに多くの方々から熱意のあふれる応募をしていただくことを期待し、総評といたします。

末筆ながら、今回熱心にご応募いただきました皆様方に厚くお礼を申し上げます。